



## 「仲間と繋がり、未来へ繋げ！(自然学校)」(5年生)

9月17日(火)～21日(土)、自然学校に行ってきました。

3日目に「アマゴつかみ」というプログラムがありました。池で元気に泳いでいるアマゴを捕まえ、生きている状態で串をさし、炭火で焼いて食べるという内容です。「口がぱくぱくしてる!」「かわいそう!」「先生、こんなんできひん!」とあちらこちらから悲鳴があがりました。以下に児童の作文を紹介します。

「かわいそうだった。串をさすのが。かわいそうだった。だって、アマゴはまだ生きている。生きようと思えば生きる事ができるんだ。私の手の中でピチピチはねている。その反対の手に、す

るとく光る串がある。この串で、今からアマゴを食べるんだ……。そう思うと、どうしてもうまくできなかった。みんなもうできているのかな……。できているなら、早くしないとみんなの迷惑になってしまう。そう思い、横を見た。びっくりした。みんなが、アマゴに水を飲ませていたから。はて……。なぜだろう? 友だちに聞いてみると、『食べる前に、たくさん水を飲ませてあげようと思って』という事だった。優しいなと思った。だから私もたくさん水を飲ませた。……。そして3分後。ついに串をさした。少し血がでていた。リーダーに焼いてもらった。自分で取ったアマゴはおいしかった。自然のありがたみや命の大切さを知ることができたプログラムだった。」



人間は様々な生き物の命の犠牲の上で生きています。「いただきます」とは「生き物の命を大切にいただくこと。」その事を感じ取る事ができた活動になりました。その後も全員で協力して、全てのプログラムを最後まで行い、心身ともに大きく成長することができた自然学校でした。

## 平和を大事に！仲間を大事に！（6年生）

一学期からすすめてきた平和学習の山場として、広島へ修学旅行に行きました。

平和記念公園の中央、「原爆の子の像」の前では、平和セレモニーを行いました。ここでは、自分たちが平和を守っていくことの誓いを立てると共に、「おりづる」の歌を歌ったり黙祷を行ったりして亡くなった方々の冥福を祈りました。その後、平和資料館にて、被爆体験語り部の岡田さんのお話を聞きました。ヒロシマの原爆について、客観的な資料からしっかり学習してきた子どもたちでしたが、岡田さんが目にしたものと体験したことを聞くと、74年前のあの日には想像していた以上に恐ろしいことが起きていたと知ることができま



した。「戦争の悲惨さや恐ろしさをまだ知らない人たちに伝えてほしい。」「もう二度とあんな



つらいことが起きないようにみんなも行動してほしい。」岡田さんからのメッセージに対して、講話の後の感想では多くの子が手を挙げて発表しました。これから自分たちに何が出来るかを考えることができました。

また、仲間を大事にして、思い出に残る修学旅行にすることも大切なめあてでした。2日間、どの班もよく協力して、時間を守って行動できました。さらに、どこでも、誰に対しても、いいあいさつができました。最高学年にふさわしい学びいっぱいの修学旅行でした。